

情報政策論第 5 回

企業の IT 利用→収入格差

IT 憲章の中で重視

ネットバブルの崩壊

IT 産業（情報インフラのハード・ソフト面での整備）の没落

ニューエコノミーの考え方

市場の反応が IT 化により敏速に把握可能

↓

ロスを最小限に防ぐことができる（売れ残りを減らす）

IT によるニューエコノミーの考え方は否定されたか？

↓

まだ明確な結論は出せない

IT 産業没落の理由

IT 産業→血肉の整備でなく神経系の整備に関わる

→血肉の整備が同時に行われない限り、
経済全体に変化なし

Amazon.com

ネット産業の花形

ネットバブルの崩壊の中、収益が大幅減→しか

復活した理由→既存のオールド・エコノミーに比して、広大な物流、物流管理に
向けた

企業の IT 化→収益格差 は？

現段階では、単純に成立しない（バランスの問題）

オールド・エコノミーとの関係調整の中で

新たに今後、成立してくる可能性もある

アメリカ的デジタル・ディバイド理解

→ 普遍性なし

しかし

利用する/しない デバイドは現にある

→ まったく意味なし? → そんなことはない

→ 経済面以外での影響 「利便性の享受」「自己表現・自己実現」

「自由なネットワーク形成」

↓

そのひとつとして、福祉的側面への影響

精神文化をあらたに発展させる可能性

↓

この流れから fall through することを危惧すべき

北欧

大きなデバイドは存在しない

→ 政策的にデバイスを生まない

福祉国家を推進していく上で IT を手段として利用しようという明確な意識

経済問題と福祉問題を平行して IT (デバイド) を捉えようとしてきた

1996. スウェーデン IT 法案

福祉水準、公正・正義等倫理水準の向上を、IT を手段として実現する

後者の意味のデバイス対策として

具体的にどのような政策をとるべきか

教育 → 教科理解の効率化のためだけとして考えるのは間違い

精神文化、福祉の観点に立ち、自己実現手段の側面を重視すべき

障害者・高齢者

IT 以外にも社会的参加に阻まれている

→ IT が福祉の中心的手段となれば、デバイドが大きな問題になる

課題

通信白書 (2000 年度) を読む。「情報バリアフリー」とはどんなものか読む。

「ユニバーサル・デザイン」Ronald L. Mase (ロン・メイス) とは?

- ・ 経済的格差の「可能性」としてのデバイド
- ・ 福祉的恩恵を受けるかどうかというデバイド

↓

経済基盤をこれから築く段階にある途上国では、経済格差も重要なデバイド課題としてとらえなければならない

福祉的な課題も含めて先進国との格差が大きな問題

2000 年通信白書

人口普及率（地域全人口に占める割合）

→現在あるインフラ格差、利用率の差が大きな問題→南北デジタル問題

↓

これを埋める上でどのような問題があるだろうか